

羅臼町

知床における野生生物との共生に向けた取り組み



2022年1月12日

羅臼町長 湊 屋 稔

羅臼町の位置

羅臼町は北海道の知床半島の南東側に位置し、目の前に広がる根室海峡の向こうには、北方領土国後島が羅臼町とほぼ平行に対峙しています。

知床半島を縦に2分する知床連山により、南北に約60km、東西に8kmと細長い形状です。

北方領土国後島までは、近いところで25kmです。

面積：397.72平方キロメートル



知床世界自然遺産の管理体制

環境省

国立公園

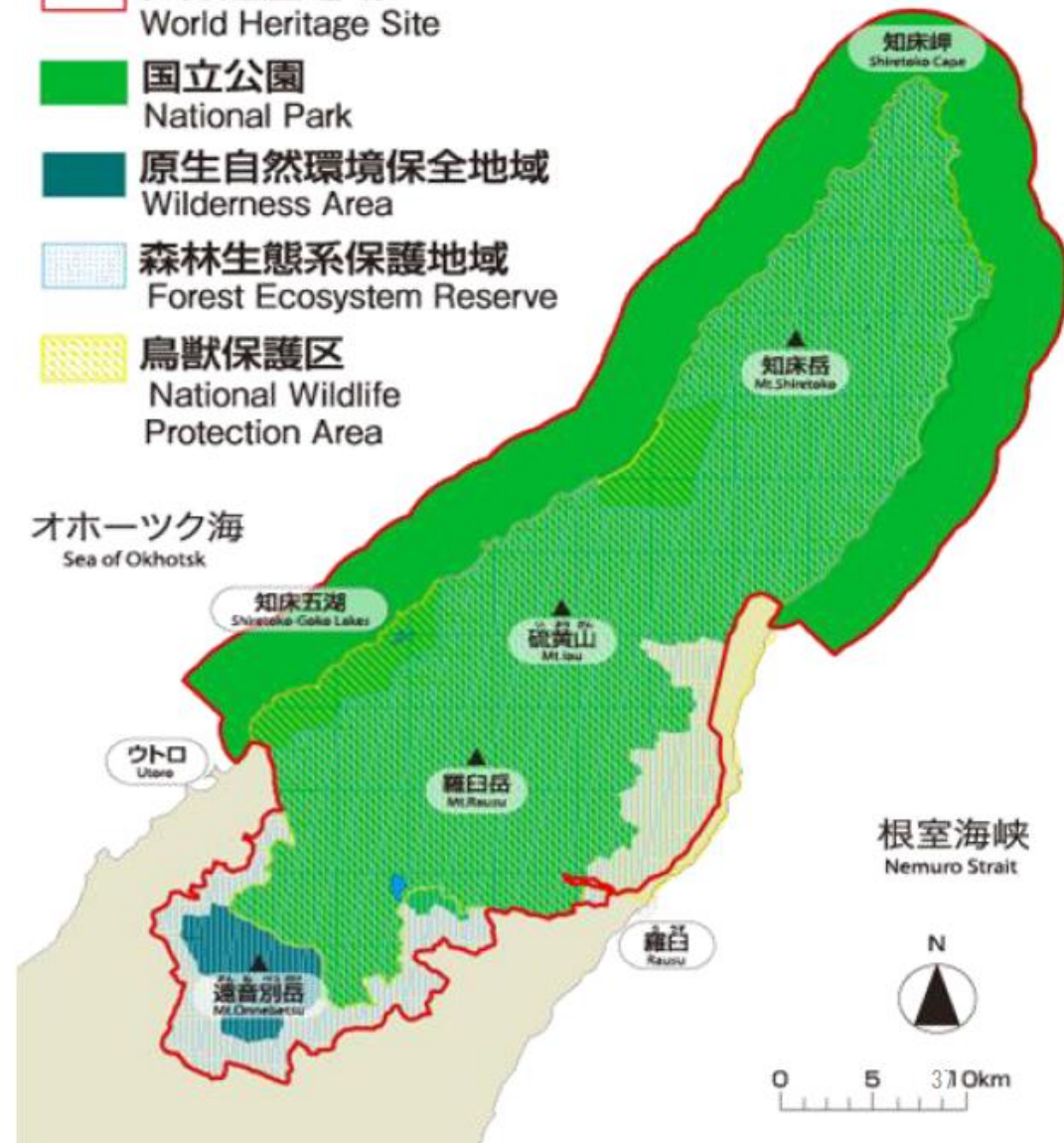
国指定鳥獣保護区

原生自然環境保全地域

林野庁

森林生態系保護地域

- 世界遺産地域
World Heritage Site
- 国立公園
National Park
- 原生自然環境保全地域
Wilderness Area
- 森林生態系保護地域
Forest Ecosystem Reserve
- 鳥獣保護区
National Wildlife Protection Area



知床世界自然遺産の管理体制

管理者

環境省

釧路自然環境事務所

林野庁

北海道森林管理局

北海道

(オホーツク、根室振興局)

地域との連絡調整・合意形成



科学的知見に基づく順応的
管理のための助言・評価



地域連絡会議

(北海道自然公園担当課長が会長)

- ・ 環境省、林野庁、北海道
- ・ 斜里町、羅臼町
- ・ 漁協、地域団体
- ・ 知床財団

科学委員会

(専門家から構成、管理者が事務局)

エゾシカ・ヒグマWG

海域WG

河川工作物AP

適正利用・エコツアーリズムWG

適正利用・エコツアーリズム部会



知床世界自然遺産
SHIRETOKO WORLD NATURAL HERITAGE

適正利用・エコツアーリズム検討会議として合同開催

39

知床の頂点の野生動物

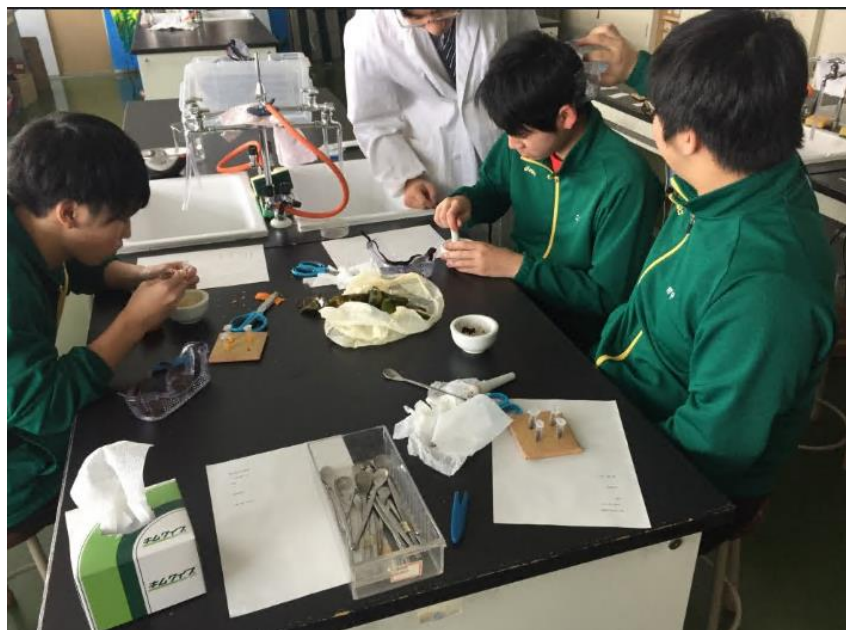


知床に住む人の知恵と学び

クマ学習、生態系学習、外来種学習



【生態系学習】



【クマ学習】

幼稚園から高校まで発達段階に応じて6回のクマ学習を経験し、遭遇時の対処法や、ヒグマの生息していることの価値、生命の営みと生態系による物質循環について学び、保護保全の意識を醸成します。

海洋教育、水産教室

【水産教室（ダイビング実習）】



【昆布学習】



【市場見学】

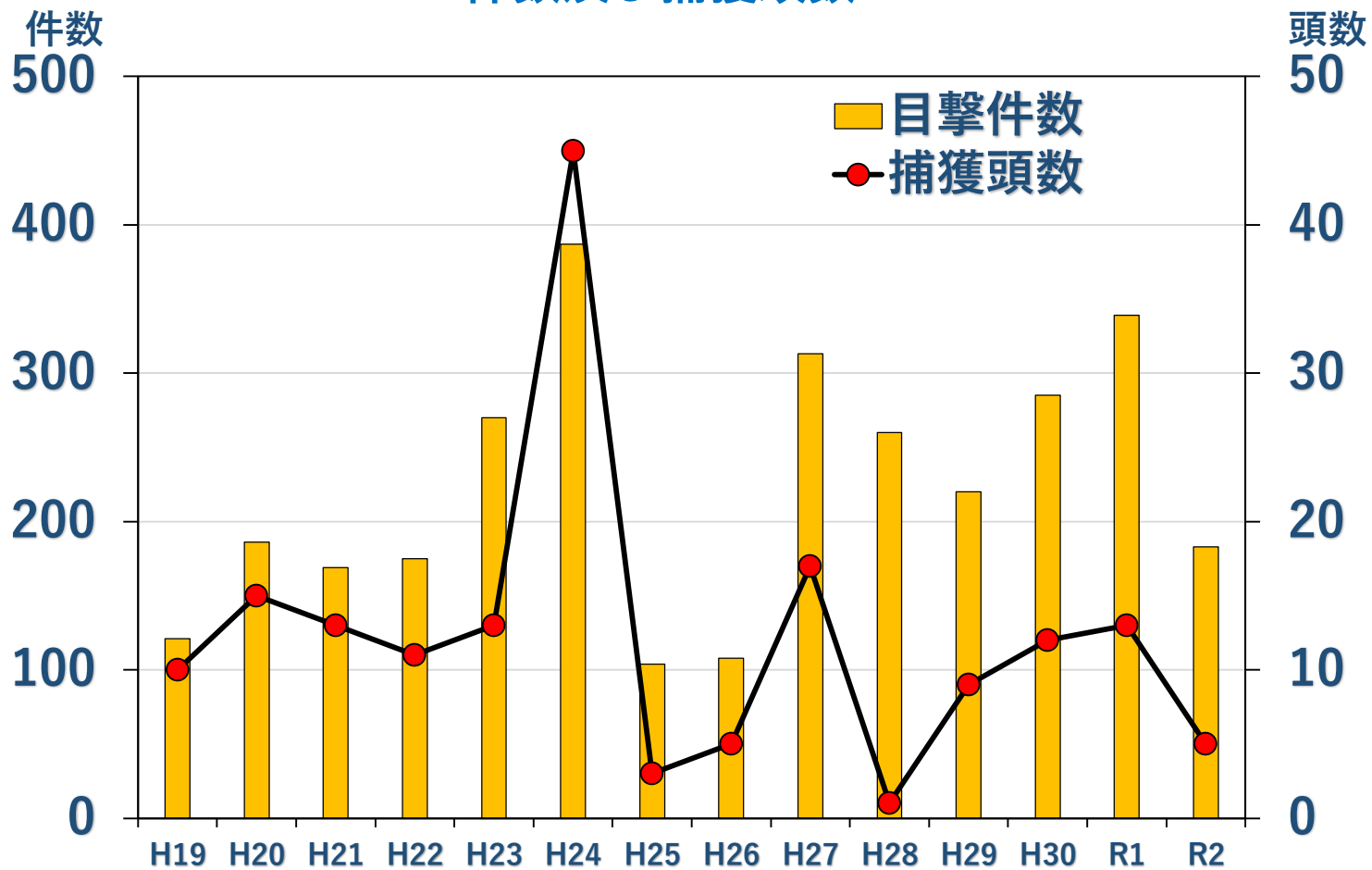


知床におけるヒグマの役割

- 生態系（陸）の頂点捕食者
= 知床の生態系全体の持続性へ重要な役割



羅臼町におけるヒグマ目撃 件数及び捕獲頭数



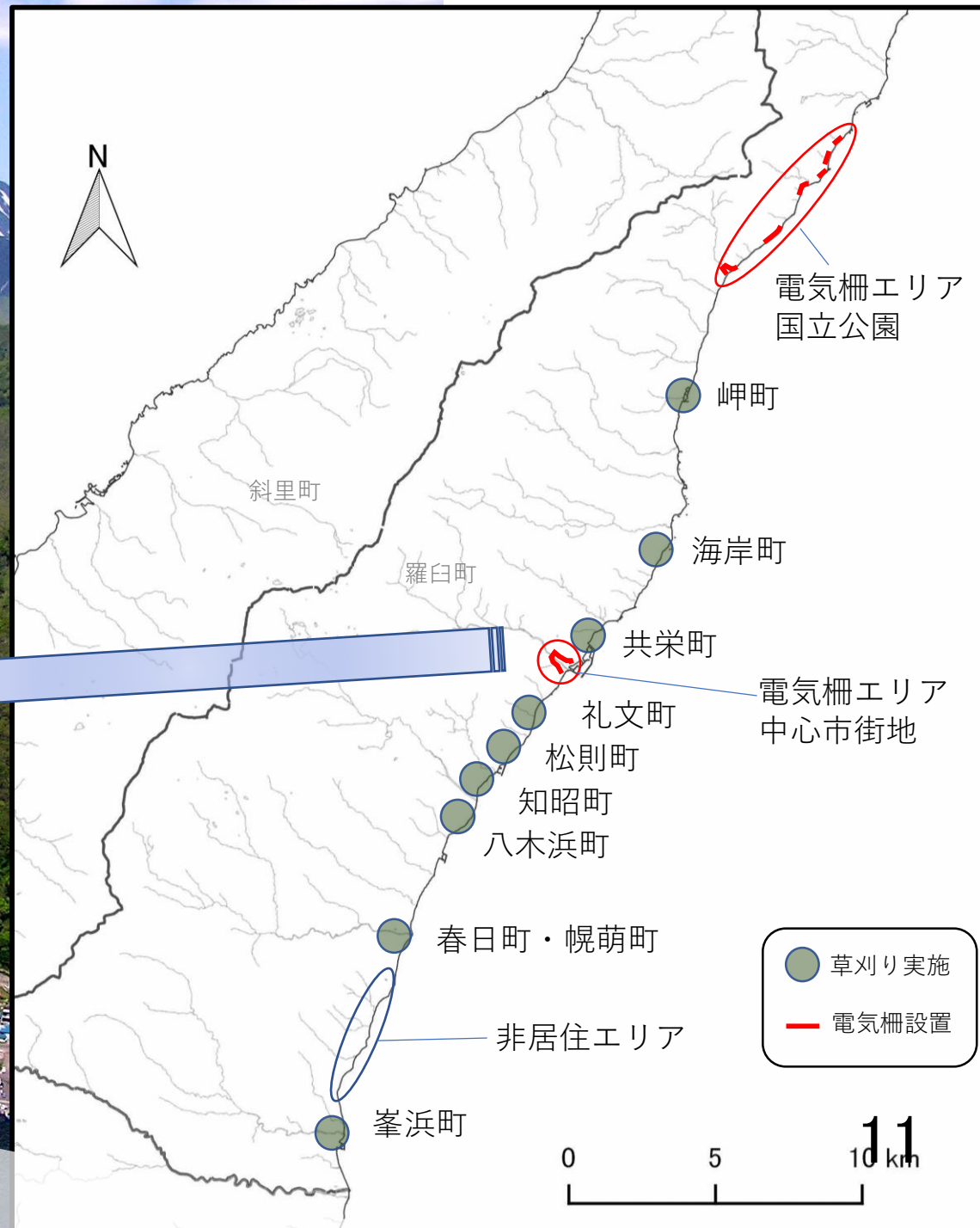
目標 人とヒグマの軋轢を低減し、住民の生活の安全性をはかりながら**共生**を目指す



羅臼町 ヒグマ出没の予防対策

- 1) 電気柵設置
- 2) 草刈り (地域でできる取り組み)

住宅の裏は山であり、
住宅は海岸沿い約40kmも及ぶ



ヒグマ出没予防策 (電気柵)



羅臼町の電気柵 = 約10km

ヒグマの出没 = 減少

電気柵設置で出没減少 ≡ 電気柵だけでは不十分



住民の意識

ヒグマ出没予防策 (草刈り)

草刈り ≡ ヒグマの隠れ場所 & 移動経路を遮断

問題グマの発生を抑制
⇒ ヒグマの有害捕獲が減少

町内会主体の草刈り実施

- ・ 期 間：R2年度5月～7月
- ・ 主 体：**10**町内会
- ・ 参加者：町民**176**名
⇒ 町民の **3%**
建設事業者7社



知床半島ヒグマ管理計画

◆計画づくり

環境省及び、林野庁、北海道、羅臼町、斜里町、標津町がたずさわり、知床財団の自然保護、調査活動の知見や研究者で構成する関連会議の助言に基づいて策定

◆特徴

- 問題行動を起こすヒグマの管理（捕獲など）
- 観光客による餌付け行為や住民等による誘因物（生ごみ、干し魚）の夜間放置など人間側の問題行動も課題として捉える。



【目標】 保護と管理による より良い関係づくり



ご清聴ありがとうございました

